



ライフプラン座談会 ～松戸市役所人事課職員厚生班の方々と～

「ライフプランについて、地方公務員の方と意見を交わしたい！」

ALPS編集部では「通信員の声」などで読者からご意見をいただいておりますが、「現場の地方公務員の方々と直接会って意見を交わすことで、ライフプランに対する現場の考え方など新しいものが見えてくるのでは」と思い、座談会を企画しました。

今回は松戸市役所の人事課職員厚生班から3名にご参加を頂いて、活発な議論を交わしました。

ライフプランはまだ先の話!?

前村…本日はありがとうございます。最初の話題として、ライフプランという言葉についての皆さんのご認識は、今の部署（職員厚生班）に就かれる前の段階で、いかがでしたでしょうか。

松丸氏…私はまだ四〇代で、ライフプラン、日本語に直すと人生設計：順風満帆に行けば六〇まで役所で働いて、六〇以降仕事が無くなってからの



<参加者>

松戸市役所人事課職員厚生班

主幹
主査

(財) 地方公務員等ライフプラン協会

市毛一己氏
加藤尚美氏
松丸裕幸氏

多田
竹内
岡山
前村（司会進行）

ものというイメージがすごく強かったですね。また早いかないところ。

加藤氏…私は結婚して以降、目の前
のことをこなすだけで日々が過ぎてしま
い、ライフプランを意識したのは住
宅を買うときとか、子供が習い事を始
めたときで、もっと先のことという感
じがありました。

市毛氏…二人と同じですが、老後と
いうイメージしか持ってなかったの
で、自分はもう四〇半ばですのでそろ
そろ考えなくてはと思いますが、正直今



加藤さん

も実感がないとところがあります。

加藤氏…ライフプランという言葉を見聞きして必要性を感じながらも、具体的なイメージ、取り掛かりの最初というのがどこから入って良いのか分からなかったですね。

市毛氏…ただ結婚して子供が生まれて家を買ってというのがあると、住宅ローンとかありますから、ローンを組むためにはいつ頃とか、いつの間にかライフプランらしきことをやっている感じはします。

前村…老後の話は、まだ先の話というイメージですね。ご承知のとおり、私共が考えているライフプランというのは老後だけでなく全年代にかかわるもので、かつお金の話だけでなくもっと総合的なものです。ただ、今お話のあった住宅とかいろんな話それぞれが、全部ライフプランにかかわっているというのが実情なんですよね。だから基本的にこれは考えていらつしやると思うんです。ただライフプランという言葉ではみんな総合的に考えていないというのが実情なのかな、という気がしますよね。そこをふまえて、具体的にライフプランを作ることに今の段階で手をつけていらつしやいますか？

松丸氏…参加した協会のセミ

ナーで「家庭経済設計」という話があって、それを聞いた直後はさすがにウチに帰って、現状の収支が全然分からなかったもので、まずは現状把握ということで、本当に簡単なメモ程度ですが、ひと月にこれだけ入ってきてこれだけ出て行つてという現状の把握はしました。ただそこから先に進んでいないですね。

前村…分かりました。加藤さんはどうですか？

加藤氏…家を買うときに銀行の方と相談してライフプランというものを作ったのですけれども、それから四年経ちまして実際には見返してもいないです。やはりその間にいろいろ変わるものがあつて、その都度見直さなきゃいけないのだというのが実感です。お金だけでなく自分達の意識自体が変わってきていて、時間の使い方や、自分達が「これは大事だ」と思っていたものの価値観や、親の介護など夫と二人で話しあつたつもりでも、私たちが話しあつて決められること以外の要素がどんどん出てくるのでやはり難しいですね。

前村…当初ライフプランを作っても自分自身も変わっていきますし周囲の環境も変わっていく、その反映が大変ですよ。市毛さんはどうですか？

市毛氏…自分の場合は、結婚して、

最初の子供ができてから年齢表みたいなものを作ったのです。何歳になったら私は勤続何年目とか、貯金を定額でやっているのでそこまでにいくら貯まるとか、私は何歳になったときに子供はどこにいるとか、簡単なものは作ったことがありますね。ただやはりそれはお金の話、子供の話が中心で、自分達の将来のことではなかったような気がします。

住宅・教育資金のことで手一杯

岡山…住宅に関して言えば、親から相続するというケースではなくて、自ら計画の中で求める方が圧倒的に多いわけです。住宅の取得というのは人生の中で大きなイベントですよ。そのときに否応なしに返済計画、何歳で完済するとかが出ますから、大きなライフプランの一部であることは間違いなんでしょう。

市毛氏…住宅だけでなく結婚にしても、昔で言えば一般的には親が出してくれたんです。今はあまりお金をかけないようにして二人で出すという前提で何年後にいくら貯まるかということを考えますと、なかなか結婚できないと思うんですよ。

多田…結婚は人生の大きな節目です



松丸さん

ね。

岡山…結婚費用は、どういう形にするかによつて全然違いますよね。入籍だけで良いと言えば割り切れるし。例えば四〇〇〇五〇〇万円かかって、じゃあお祝いでどのくらい賄えるのか、それと親からの支援とかもあるだろうし。

市毛氏…そういうのは、当時ちゃんとやっていなかったから分らないですよ。一方教育費はホントに、知らないうちに飛んでいきますからね。私は大学の学費が高くて、不安ですね。

竹内…例えば、教育費、家について、必要な資金としてお金を中心に考える必要があります。しかし、例えばご夫婦もしくはご自身が「こういうことをしてみたい」だとか、趣味、生きがいという部分とお金の部分をマッチングさせるということを今までできていますか？

市毛氏…スポーツが好きで、役所でも野球部だったんですけど、野球はある程度の歳になったらできなくなりまうから、今度は太らないようにと思つて走っています。走るだけだとお金はかからないじゃないですか。いろいろな大会に出ると参加費等がかかっていますが、走るのはいくらも続けてい

きたいなと思つていますし、フルマラソンや一〇〇キロ走に出てみたいなと思いますね。

松丸氏…私は犬が好きなんです。たまたま職場で昨年ある旅行の添乗員をやったときに、帰りのバスの中で犬の物語の映画を観てすごく感動して、帰つてきた次の日にペットショップに行つて犬を買つたんです。それまで全然スポーツはしてなかったんです。酒も結構飲み、タバコも吸うし、体に悪いことばかりやっているから体を動かしたほうが良いだろう、でも一人じゃ…ということで、犬を飼つて朝早く起きて散歩させれば多少は違うだろうと。直接は関係ないかもしれないのですが、犬を飼うことによつて運動不足解消です。それは良かったですが、今の「家族プラス1」なので、結構費用がかさみます。今振り返りますと、エサ代など大変です。俗に言う衝動買いですよ。

前村…そんなに衝動的じゃないとは思いますが、お金のことは後から認識するという感じですね。

将来の変化への対応が難所

岡山…さつき加藤さんがおっしゃつた、計画後に想定外の変化が起きる

という話に関して、私もライフプランを作りますけれど、やはり病気とケガ・災難というのは予測できない計画できないですよ。だから結果的には、経済的な面では常に一定の余裕を持って生活するしかないのかなと思います。

加藤氏…本当につくづく感じますね。
前村…ライフプランを考える上でネットワークになるのは、変化への対応ということですかね。

加藤氏…結構、降りかかってきて「ああ、そうだ」という感じの計画性なさを自分で感じるんですけど（笑）。私達は転勤はありませんので、住居が変わるという事はありません。ただ我が家の場合は、夫の転勤がありまして、今は通勤で横須賀まで通っています。今日も始発で出て行つたんです。お金（給料）の面は変わらなくても、家族の時間という意味で計画が変わってきます。

岡山…ご主人の転勤とかは大変ですよ。例えば、お金の面では保険をかけておけば万一の事態にでも補えるんですが、お金で補えない部分の突然の変化というのは当然自分自身が予期していないわけですから、それは常に突然来ちゃうわけです。本人のことや、家族の一員のいろいろな変化もあつて、それが実際家族全体に影響を与えてし



市毛さん

まうというところが、難しい側面ですね。

前村…難しいです。変化があったらその都度作り直してくださいとしか言いようがないんですが（笑）。条件が変わったら変化するというのは仕事でも同じですよ。

加藤氏…一ヶ月間に使えるお金だけでなく、一ヶ月間お互いに使える時間も考えなくてはいいんだな、と。我が家は土曜日に子供がクラブに行っている間に、夫と二人で喫茶店でモーニングをしながら手帳と子供の連絡用紙、学校からいついっとういう催しがありますというのを持って、会議みたいに話をするんですよ。

多田…仲が良いですね。

市毛氏…意思の疎通をしつかりやっているとこのが。

松丸氏…我が家だとそんなことをやったらケンカになっちゃいますけどね。

加藤氏…それより私がすぐ忘れてしまうから、「君はちゃんとメモを取らなきゃダメだ」というのが始まりで。

松丸氏…行事は良いんですが、「このときに三万円出るからね」と言うのと「ないよ」みたいな（笑）。

加藤氏…飲み会があっても内緒にします？

松丸氏…内緒にはしない。
市毛氏…次の日分かってしまいますから（笑）。

家計簿について

前村…ちなみに、奥さんは家計簿をつけていらつしやいますか？

市毛氏…全然つけていません。

前村…どんぶり勘定？

市毛氏…おおよざっぱで、逆にちよつと心配してしまふくらいです。

松丸氏…我が家もスーパーどんぶりですね（笑）。あることがきっかけで、大学ノートは買ってきて一枚目に線は引くんです。線は引くんですが、二〜三枚書いたら「もういいや」みたいな感じで子供の落書き帳になっていたり。

前村…我が家は今のところ家計簿ソフトを使っています。始めて半年です。

加藤氏…パソコンでやると、立ち上げる時間をもつたいたなくて。働く人達のための家計簿の作り方を教えてもらえたら嬉しいですね。主婦雑誌を見ますと、専業主婦向けという感じで細かくて、仕事をしている女性でもできるという雰囲気の家計簿があれば良いな。

前村…忙しい人でも継続可能な家計簿のつけ方のノウハウですよ。家計簿をつけることを勧めるならば、具体

的なやり方までサポートしてくれよという話です。

岡山…それと、なぜつけるのかという動機付けです。それがしっかりしないと。なんでこんなことやらなければいけないか、当然ムダを省く…。

市毛氏…女性がよくつけている本格的な家計簿ではなくて、将来的にこれだけかかるのでこういうムダをなくそうとか、そういう目的で行う、簡単にできる家計簿ができるようになると良いと思います。

岡山…ウチの女房は結婚直後からつけていますが、やはり把握してどうなるのというコンセプトで大事です。

市毛氏…我々は年間の収入予想は行いやすい立場にいます。

岡山…普通に健康でやっていればなんとかなるんじゃないの、という何となく安心感を持たれているのでは。

多田…退職金も年金も概ね計算できますし。

前村…だから、考えるのは早いとなつてしまふんでしょうね。その辺が、ライフプランが進まない理由でもある…。

市毛氏…ボーナスが出なくなるとか、今月お給料が出ないとかいう話になりますと、日々の生活で「明日どうするんだ」となりますからね。減ることは分かっていますが一応出ますから。

将来の夢・希望

前村…それでは、話せる範囲で結構です。皆さんの将来の夢、希望についてお話を聞きたいなと思います。

市毛氏…子供が独立後、妻と二人だけになりますので、どうしようかという程度ですが。妻は比較的家にいますので好きで、かたや自分は外にいるのが好きです。だからなるべく今から外に連れて行って、散歩の時間とかを一緒に作るうと思っています。あとは孫の顔を見て…ちよつと今は全く実感がないですね、将来や夢と言われましても。やはりマラソンは続けたいと思っていますし、妻と旅行に行ければ良いかなというくらいです。

加藤氏…今は自分の夢イコール、そのまま子育ての夢になっているのです。今一二年ぶりに、独身時代から習っていた日本舞踊をまた下の娘と一緒に始めるようになりました。自分の趣味を子供と一緒に好きでやってくれるというのは本当に二倍楽しいのですね。さらに私と子供と一緒に着物を着てちよちよこ出かけているのを見て、母がまた喜びます。母が私に日本舞踊をやらせたことで今度は孫もやるようになったというのは、母にとってすごく嬉しいようです。細く長く

続けていけたらなと思っています。先生の教室でボランティアとして老人ホームに行ったり、小学校の盆踊り大会で教えたりしていることも続けていければ良いと考えています。

松丸氏…私の理想は、実家が近くにあり行き来できるような距離に住むことです。それがひとつの夢と言えれば、かもしれないですね。ただ、今やらなければならぬ子育てに集中して、息子や娘を成人させた後考えても別に良いのかなと思います。

市毛氏…ただ定年延長により、六〇歳以降も更に五年くらい働くんですかね。

松丸氏…するとその間のライフプランというのがまた必要ですね。

市毛氏…六〇歳以上のライフプランというのがあっても良いのかな、と。
松丸氏…ガイドブックの厚さが半端でなくなったりしますね。

まだまだ低い ライフプランへの関心

前村…今職員厚生部署で、職員の方から相談を受けられると思うのですが、一般の職員の方のライフプランに対する認識というのはいかがですか？

市毛氏…かなり低いと思います。五三

歳以上を対象にライフプランセミナーがあるから出てくださいとウチの職員に声かけしていますが、五三、五四歳はほとんどいいですね。やはり五八、五九歳、直前にならないと皆さん出てこない。あとは「資料だけちょうだい」とか。

松丸氏…当方の主催である会場を借りてやったのですが、たまたま前回人がそんなに集まらなかったんです。年配層に結構知っている方がいるので、頼みに行っただけですよ、ライフプランをやるんだけど人があまり集まらないから来てくれない？と。そしたら、「去年出たからいいや」だとか、一回聞いたからいいや、という認識です。

前村…一回聞いて理解して実践していれば、問題ないです。でもやっていない人が多い。話を聞いたその時点ではやるべきだと思われても、面倒なのかやり方が分からないのか、結局やらないう。セミナーでは手順の話はするんですが。

市毛氏…我々職員が聞いただけではピンと来ていない人がまだ多いんじゃないかと思うんですよ。奥さんを連れてくるとか…。

前村…できれば家族も一緒に参加してほしいですね。

市毛氏…奥さんは真剣になつて聞くでしょうから、尻を叩かれて…というの

はあるかもしれませんがね。

前村…切迫感がないところでは、なかなか難しいかもしれません。

市毛氏…お金だけの、何年後にいくらというだけの話ではなくて、趣味などいろいろなものを入れての人生計画といったものを今頑張ってるっていきましようということですからね。お金は嫌でも計算しなければいけない話ですが、それ以外に興味とか今後の生活の部分を考えなければならぬ。

前村…加藤さんはどう思われていますか？

加藤氏…私は年金相談を担当していますが、九〇%くらいの方が年金の試算額が出てから、初めてライフプラン相談を、年金の相談として受ける方が多いです。奥様の年齢によって加給年金がつくつかないかは、その方の配偶者の収入や共稼ぎであることによつて、人により全然違います。あと、よく聞かれますのが、繰上げ支給をするか、しないかです。それもその方の体調や年金以外の資産などいろいろな問題を考えてみる必要があります。

前村…個別事例が多いですよ。オーダーメイドで答えていくしかないですから、大変ですね。

加藤氏…差し支えない範囲で伺って、メリット・デメリットをお話して、あとはご自身がどちらを取るかというお

話になります。退職金の試算書が来て初めて、という方が多いんだと思います。

竹内…要は、始めるのは早ければ早いほど良いことだというのは、この種の業務をやれば皆さん気づくことだと思うんです。だけど一般職員の方達は気づくところまで至らないわけです。気づかないから、重要なことだと思わないうですし、受けたとしても若ければ若いほど次のアクションにつながっていないんじゃないでしょうか。

多田…必要性を感じないということですよ。

竹内…ライフプランをより浸透させていくためにはそこが一番課題じゃないかなと思う部分なんです。私は、一〇人中に一人でも二人でも良いので、講演で我々が話したことが気付きになつてアクションを取ってもらうことにながれば良いと常に思っています。でも実際にやってみますと、どこまでその後やっていくかというの不安になる部分なんです。

市毛氏…こういうライフプランセミナーがありますので出席お願いしますとと言われても、四〇代ですと正直仕事を抜けられないのではないかと思います。五〇代中頃の方達だと行きやすくなってくるのでは。我々ですと、仕事だから行けますけれど、自分は今

係長ですが別の部署で同じくらいのポジションの方ならば、仕事で抜けられないというのが多いと思うんです。周りへの気兼ねも含めて行きづらいうのもあるかもしれません。「まだ早いわんじやないの？」と言われてしまうことが、きつと自分の気持ちの中にあるんです。

前村…本当にメリットを実感できるセミナーであれば早ければ早いほど良いんです。それが目に見えて分かる、更に参加する前から分かるようなものであれば喜んで参加するんでしょうけれど、そこがライフプラン計画表を作った段階では見えないですから。

市毛氏…例えば参加した人だけ退職金がいくら分かる、とか(笑)

竹内…お土産か何かをつけてあげれば出席率は上がるんでしょう。しかし、民間もそうですが、「たそがれ研修」のイメージが強いかもしれません。

松丸氏…淋しい感じがしますね。

多田…まだその領域から脱しきれていない部分もあるんでしょう。いかに気づかせるかということなんですよね。

前村…まだまだお話は尽きないようです。「気づき」を与えていく努力を関係者で是非続けていきましょう。皆さん、本日はありがとうございました。